

デザート選び、笑顔

岐阜保健大 関ヶ原町で認知症カフェ



岐阜市東鶴、岐阜保健大看護学部は21日、不破郡関ヶ原町関ヶ原のグループホーム「うららびより」で、認知症カフェを開き、入居する女性9人がデザートバイキングを楽しんだ。

同学部は、看護師を目指す

デザートバイキングを楽しむ
入居者らは、不破郡関ヶ原町関ヶ原、グループホーム「うらら
びより」関ヶ原

す学生に高齢者介護の現場を知る機会を提供することや地域貢献を狙つて、昨年8月からキャンパス内で認知症カフェを毎月開催。認知症患者や家族、介護者らが悩みや相談事を気軽に話し合える場を設けている。

グループホームを運営する

アートジャパンナガヤ設

計（羽島市正木町大浦）が

介護福祉事業の海外展開で

同学部講師の中谷こづえさんからアドバイスを受けた

縁もあり、入居者は何度も認知症カフェに参加。訪

問型』の認知症カフェも3

回目となり、教員たちがグループホームで働いているスタッフに看護の知識を生かした高齢者へのより良いアプローチを伝えている。

デザートバイキングは、食べたいと思うものを選ぶ楽しみや喜びを大切にする

「選択的支援ケア」の考え方

方に基づいた企画。この日

は白井キミカ学部長、中谷さんら教員3人がケー

フルーツの盛り合わせ、フルーツジュースなどを持つ

て訪ね、入居者は目を輝かせながらデザートを選んで

笑顔で頬張った。